

「東京都知事選挙はどのような視点から総括されるべきか」



五十嵐仁の「転生仁語（2016年8月3日）」より

五十嵐さんは「転生仁語」というブログを毎日アップしています。8月3日（水）は「東京都知事選挙はどのような視点から総括されるべきか」の表題で綴っています。今回はこの記事を実資料として掲載します。

都知事選挙の結果について、ネットなどで様々な意見や総括が飛び交っています。とりわけ野党共闘と市民が擁立した鳥越さんが直前の参院選で得た野党各党の合計票を大きく下回ったために、陣営内部での対立や紛糾が生じているように見えます。選挙の総括をめぐって事実認識や見解の相違が生ずるのはやむを得ないことですが、それが対立や分裂を生むことになっては困ります。この点を憂慮しつつ、都知事選挙はどのような視点から総括されるべきかについて、私見を述べさせていただきます。

まず、基本的な視点です。今回の都知事選挙で有力3候補の1人を擁立して当選を目指し、カヤの外での独自の闘いを避けることができたことを評価したいと思います。それが可能だったのは、第1に、鳥越俊太郎という知名度のある素晴らしいジャーナリストが立候補を決断したからであり、第2に、民進党を含む野党と市民との共闘が実現して協力体制を組むことができたからであり、第3に、宇都宮さんの苦渋の決断によって分裂選挙を避けることができたからです。この3つの条件が揃わなかったら、野党共闘を成立させて当選を争う有力候補の一角に食い込むことは難しかったかもしれません。もちろん、選挙についてのきちんとした総括が必要であることは当然ですが、個人攻撃や誹謗・中傷にならないように十分に留意する必要があります。あくまでも総括は団結を固めて前進するためになされるもので、団結を弱めて後退するような形には元も子もありません。

第1に、今回の野党共闘と市民の統一候補となった鳥越さんは良く立候補したと思います。私も八王子市長選挙に立候補し、候補者活動がいかに過酷なものであるか、身をもって体験しましたから、その決断と勇気を高く評価したいと思いますし、これによって野党相乗りや民進党の共闘からの離脱を防ぐことができました

惜しむらくは、年齢が高く健康面での不安を払しょくできなかったこと、出馬表明が遅かったために準備が不十分で、政策面で練られた対応を行えなかったことです。これらを含めてすさまじい個人攻撃の嵐が吹き荒れ、週刊誌による女性スキャンダルについての報道もありました。

これらについての事実確認や対応の仕方についての検証は必要だと思います。しかし、その場合でも、より効果的に反撃し、ネガティブキャンペーンの選挙への影響を最小限に抑えるために何が必要だったのか、どう対応すればよかったのかという視点から総括されるべきではないでしょうか。

第2に、野党と市民の共闘による知事選挙が実現したことの意義を高く評価しなければなりません。統一候補の擁立は1983年の社共統一候補だった松岡英夫さん以来のことでしたが、今回は民進党、日本共産党、社民党、生活の党と山本太郎となかまたちの国政4野党に、東京・生活者ネットワーク、新社会党、緑の党グリーンズジャパンを加えた7党の共闘で、しかもこれに市民も結集したものでした。とりわけ、この共闘に民進党が加わり、国政レベルでの4野党共闘が維持されたことの意義は極めて大きなものであります。それを実現するうえで発揮された岡田執行部のリーダーシップを高く評価したいと思います。惜しむらくは、連合東京が自由投票ということで組織として動かなかったこともあり、野党の総力が結集される形にはなりません。この点でも問題点や不十分な点を検証することが必要ですが、互いに相手を非難するような総括は避け、より効果的に総力を結集するために何が必要だったのか、どうすれば良かったのかという視点を貫くべきではないでしょうか。

第3に、宇都宮さんも立候補辞退を良く決断したと思います。立候補を表明したのは告示3日前というギリギリの時点で、その直後に鳥越さんの立候補表明をうけて辞退したために準備してきたポスターやビラなどすべてが無駄になり、多額の損失を出したにちがいないありません。それにもかかわらず分裂を回避するための苦渋の決断を行ったことを高く評価したいと思います。悔しい思いもあったでしょうし、支援者を説得するのも大変だったろうと思います。惜しむらくは、鳥越・宇都宮がタッグを組んで二人三脚で選

挙を闘うことができず、宇都宮さんが最後まで鳥越さんの応援演説に立たなかったことであり、選挙が終わってから経過について微妙な発言を行っていることです。もちろん、すでに終わったことだから口をつぐめというわけではありませんし、宇都宮さんには当事者の一人として事実はどうであったのかを明らかにし、どこに問題があったのかを検証していただきたいと思います。

その場合でも、鳥越さんの擁立に至る経過を宇都宮さんが「独裁」と発言しているのは残念ですし、橋下さんの番組にまで出て批判することが今後の運動にとっても、宇都宮さん自身にとってもプラスになるとは思えません。支援者間の非難合戦にならないように配慮しつつ、宇都宮さんの決断を生かすためにはどうすべきだったのか、鳥越勝利に貢献するために何をすべきだったのかという視点からの総括が大切なのではないでしょうか。

これから事実を明らかにして問題点を検証する作業は本格化するでしょう。各方面から様々な意見が出されてくるに違いありません。しかし、鳥越さんは立候補するべきではなかった、野党は共闘するべきではなかった、宇都宮さんは辞退するべきではなかったなどという後ろ向き意見には賛成できません。そのどれ一つが欠けても有力候補の一角を占めることはできなかったでしょうし、当選できると信じて選挙戦を戦うことは難しかったでしょう。

革新都政の奪還は「夢」に終わりましたが、その「夢」を見せてくれたのは立候補を決断した鳥越さんであり、それを支援した野党と市民の共同であり、分裂を回避するための宇都宮さんの苦渋の決断でした。そのどれ一つが欠けても、「夢」を見ることは不可能だったのではないのでしょうか。先の参院選での野党共闘は急いで建てた「プレハブ」のようなものでした。今回の野党共闘は突然訪れた嵐から緊急に避難するために建てた「掘っ立て小屋」のようなものだったかもしれません。それでも、暴風雨による雨露をしのぐことができました。それがなかったら、激しい雨に打たれて寒さに震え病気になっていたかもしれません。

急いで建てたことに問題はなかったのですが、結局、グリーン・ポピュリズムの嵐によって吹き飛ばされてしまいました。問題は、もっと早くから準備をしてもっと頑丈な小屋を建てるのができなかったという点にあります。

【2 / 2 ページに続く】



【1 / 2 ページよりの続き】

選挙の総括によって教訓を引き出すことは必要ですが、それはあくまでも団結を強めて前進し勝利するためのものでなければなりません。分裂を引き起こして後退するようなことになれば、選挙での敗北に加えてさらにもう一度敗北することになります。

選挙が終わっても、都民の手によって都民の手にクリーンな都政を取り戻すための闘いは続きます。選挙の総括はこのような闘いの一環であり、次に勝つための条件を探りそれを生み出すための作業でもあるということを忘れないようにしたいものです。

五十嵐仁氏

政治学者・法制大学大原社会問題研究所名誉教授。
専門は労働運動、労働問題。2015年12月東京都八王子市長選挙に無所属（社・共推薦）で出馬した。
1951年2月24日・新潟県出身・65歳。

『30キロ圏内の市町村は 「安全協定の見直し」の請願をしよう』

原発再稼働の可否が、東海村だけに認められているのを、30キロ圏内の市町村に拡大せよ、という市町村議会への請願が取り組まれています。

先日常陸太田市でも、9月議会に向けて手続きをした。福島原発事故見てもわかるように、放射能被害は立地自治体を超え範囲に及びました。この教訓から再稼働の可否をせめて30キロ圏内の自治体に認めよということは、当然の要求です。

東海村では、商工会議所や原発再稼働賛成議員が、40年も稼働し老朽化した原発をさらに稼働させるという、日本では経験したことがないことを進めようとしています。事故が起きない保証はあるのでしょうか？

事故が起きたら、東海村商工会議所や原発再稼働賛成議員は被災地や被災地者の責任者を取るのでしょうか？。それだけの覚悟があるのでしょうか？。事故が起きたら彼らは、被災者から永久に非難と賠償を求められるのです。

このようにならないためにも「安全協定」の見直しが必要です。

読者の皆さん、自分たちの自治体に請願しましょう。

常陸太田平和の会（鈴木正彦）

定期大会の後は、バーベキューで交流会！

おおみや平和の会

「憲法九条を守ろう」の看板、2基目を設置！

おおみや平和の会では、2016年度総会を5月15日（日）東野地区奥久慈公園で開催しました。定期大会後には、バーベキュー、ビール、焼酎、おにぎりの昼めし等を、飲んで、食べて交流しました。経費は恒例によって参加者の参加費で賄われ、残った1500円は平和の会の会計に繰り入れました。

8月3日（水）から17日（水）まで、市役所1階のロビーで「広島・長崎原爆写真」「沖縄戦」「イラク戦争と子どもたち」をテーマに、写真展が開催されます。



◆「憲法九条を守ろう」の看板を新しく設置！ 旧看板も衣替え！

若林の県道21号線（大宮～御前山線）に写真の看板が立てられました。工業団地入口500m東側です。会員である寺門さんの土地です。くっきりと自動車などの通行者全員に訴えています。

6年前、東野地区の国道293号沿い、玉川小学校入口にある横山さんの畑にも「憲法九条を守ろう」に立てました。この看板も今回衣替えしました。毎日何千人と通る人々に「憲法九条を守ろう」と呼びかけています。

これでおおみや平和の会は2枚の看板で通行者全員に「9条を守ろう」と訴えています。

市民連合「東京都知事選の結果についての見解」

2016年7月31日の東京都知事選において、小池百合子候補が当選し、市民連合が推薦した鳥越俊太郎候補は増田寛也候補に次ぐ3位に終わりました。鳥越候補が、都知事選における野党候補としては久しぶりに100万票を超える130万票あまりを獲得したとは言え、不本意な結果になったことを重く受け止めています。



◆戦争の悲惨さと平和の尊さを知ってほしい！ 「読み聞かせの会」

8月28日（日）、1時30分から3時まで、昨年に引き続いて、市の図書館にある情報館で「読み聞かせの会」が開かれます。

絵本「ちいちゃんのかげおくり」「ヒロシマの命の水」
詩「ハナミズキ」「死んだ男の残したものは」
被曝体験集「木の葉のように焼かれて」より
主催 おおみや平和の会、新日本婦人の会、
命つなぎ隊ともとも友 共催

後援 常陸大宮市 常陸大宮市教育委員会
一人でも多くの人が見て、戦争の悲惨さと平和の尊さを知ってほしいと思います。

◆映画「母と暮せば」の上映会 8月26日（金） 常陸文化センターで開催！

映画は山田洋次監督 吉永小百合主演の最新作。
日本アカデミー賞受賞（優秀作品賞・優秀主演女優賞・優秀主演男優賞・最優秀助演女優賞）の作品です。

○午前10時30分 午後2時 午後6時30分の、3回上映。
○前売り券1000円（当日券1300円）前売り券は、市内5商店「おおくらや」「山田文具」「ヨソクラススポーツ」「御前山饅頭ひやま」「はなの店 オオモリ」で取り扱い。